根の研究（Root Research）7，85（1998）

報　告

第2回国際菌根会議に参加して

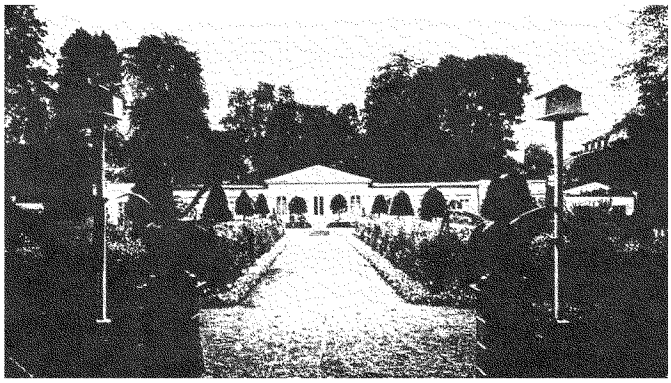
名古屋大学生命農学研究科　　中野愛子

1998年7月5～10日スウェーデン農業大学において、第2回国際菌根会議が開催された。これは、米国と欧州で別々に開催されていた菌根に関する国際会議が統合された、1996年カリフォルニア大学バークレー校での第1回会議に続くものである。約540人の研究者が、講演,ワークショップ,そしてポスターセッションに参加した。わたしは『$\delta^{13}C$（炭素安定同位体自然存在比）分析に基づくアーバスキュラー菌根菌の胞子中炭素起源の推定』という題でポスター発表をした。

エクスカージョンの日を除く毎日、全部で8部門の講演と14部門のワークショップの内容の密度に、国際会議初参加のわたしは圧倒され、英語力の不足によってそれが増幅され、消化不良気味であった。付け加えるなら、午前と午後の休憩での籠いっぱいの菓子や果物、そして夜のパーティーでの人々の活気にも圧倒された・・・。しかし、わたしの研究テーマである物質循環の部門では、発表はずいぶん理解できたし、ポスターよりさらに多くの説明やデータを聞くことができたこと、そして他の部門でも、わたしにとっては普段触れる機会が少ない数々の視点を示され、次の実験について示唆を与えられたことは、たいへん有意義であった。

ポスターは、会議期間中掲示されていたけれども、500枚以上あるそのすべてを細かく見ることは不可能だった。会議1日目のポスターセッションの時間には、会場は人があふれて賑わい、用意されていたプリントのほとんどがなくなっていたけれども、2日目以降には人がまばらになって落ちついた雰囲気となり、あるポスターに興味を持った人と探し出されたその著者が議論して盛り上がっている光景が時折見られた。わたしのポスターと近い場所に、わたしの炭素とは対照的に窒素の同位体比を分析しているグループの発表があり、彼らから研究に対する考えを聞くことができたうえ、印刷前の投稿論文を鞄から出して渡された。お返しに、1日目にポスターの前からすべてなくなったわたしのプリントを渡そうとすると、「それはもうもらっているよ。」と言われて、苦労して準備し遠くまで来た甲斐があったと実感した。

会議が開催されたウプサラ市は、教会と大学を中心として発展してきた古都であり、また分類学,二命名法で有名なリンネの出身地でもあり、少し前の筑波を想わせる、落ちついた静かな街であった。したがって、大学が中心部から離れている、夜に繰り出すところがないという声も聞かれたけれども・・・。スウェーデン第4の都市というその街を一歩出ると畑地・草地が広がり、わたしが実験に用いている牧草がどこにでも生育している環境は、たいへん羨ましく感じられた。わたしは実験する場所か材料のいずれかを間違えているのでは、とも・・・。北極圏に入っていないとはいえ1日中暗闇に包まれることはない空のもと、わたしは初めての国際会議と初めての北欧スウェーデンを満喫し、研究室に戻って来ました。会議に行く前も行った先でも戻った後も、いろいろな人にお世話になりました。心から感謝します。



リンネ・ガーデン（ウプサラ市内）

学会の内容は1年間ホームページで見ることができます　http://www-icom2.slu.se/